

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Patent Application of:

Tomoharu MURO

Application No.:

Group Art Unit:

Filed: February 25, 2004

Examiner:

For: APPARATUS HAVING AN INTER-MODULE DATA TRANSFER CONFIRMING
FUNCTION, STORAGE CONTROLLING APPARATUS, AND INTERFACE MODULE
FOR THE APPARATUS

**SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIOR FOREIGN
APPLICATION IN ACCORDANCE
WITH THE REQUIREMENTS OF 37 C.F.R. § 1.55**

Commissioner for Patents
PO Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Sir:

In accordance with the provisions of 37 C.F.R. § 1.55, the applicant(s) submit(s)
herewith a certified copy of the following foreign application:

Japanese Patent Application No(s). 2003-298203

Filed: August 22, 2003

It is respectfully requested that the applicant(s) be given the benefit of the foreign filing
date(s) as evidenced by the certified papers attached hereto, in accordance with the
requirements of 35 U.S.C. § 119.

Respectfully submitted,

STAAS & HALSEY LLP

Date: February 25, 2004

By: 

Paul I. Kravetz
Registration No. 35,230

1201 New York Ave, N.W., Suite 700
Washington, D.C. 20005
Telephone: (202) 434-1500
Facsimile: (202) 434-1501

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 8 月 2 2 日
Date of Application:

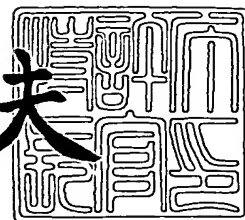
出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 2 9 8 2 0 3
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 2 9 8 2 0 3]

出 願 人 富 士 通 株 式 会 社
Applicant(s):

2 0 0 4 年 1 月 5 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号 出証特 2 0 0 3 - 3 1 0 8 5 1 1

【書類名】 特許願
【整理番号】 0351763
【提出日】 平成15年 8月22日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 G06F 13/00
【発明者】
 【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区上小田中 4 丁目 1 番 1 号 富士通株式会社
 内
 【氏名】 室 知治
【特許出願人】
 【識別番号】 000005223
 【氏名又は名称】 富士通株式会社
【代理人】
 【識別番号】 100092978
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 真田 有
 【電話番号】 0422-21-4222
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 007696
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1
 【包括委任状番号】 9704824

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項 1】

第 1 モジュールと、第 2 モジュールと、インターフェイスバスを介して該第 1 モジュールおよび該第 2 モジュールをそれぞれ接続され該第 1 モジュールと該第 2 モジュールとの相互間をデータ転送可能に接続するブリッジモジュールと、該第 1 モジュールが該インターフェイスバスを用い該ブリッジモジュール経由で該第 2 モジュールへのデータ転送を行なった際に該ブリッジモジュールから該第 2 モジュールへのデータ転送を確認するための確認コードを該ブリッジモジュールに設定する確認コード設定手段とをそなえとともに

、該第 1 モジュールが、

該第 2 モジュールへのデータ転送に必要な転送情報とデータ転送確認フラグとを含むデータ転送記述子を設定する記述子設定手段と、

前記データ転送確認フラグがオンの場合、前記確認コードを該ブリッジモジュールから該第 1 モジュールへ読み出すために必要な確認コード読出情報を含むデータ転送確認記述子を、該記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に基づいて自動的に生成する記述子生成手段と、

該記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に従って該第 2 モジュールへのデータ転送を制御するとともに、前記データ転送確認フラグがオンの場合、該第 2 モジュールへのデータ転送の終了後に、該記述子生成手段によって自動生成された前記データ転送確認記述子における前記確認コード読出情報に従って、該ブリッジモジュールからの前記確認コードの読出を制御する制御手段とをそなえて構成されていることを特徴とする、モジュール間データ転送確認機能を有する装置。

【請求項 2】

ディスク装置とホストとの間にそなえられ該ホストの該ディスク装置に対するアクセスを制御するストレージ制御装置であって、

該ディスク装置とのインターフェイスを制御するディスクインターフェイスモジュールと、

該ホストとのインターフェイスを制御するホストインターフェイスモジュールと、

本装置全体を統括的に管理する管理モジュールと、

インターフェイスバスを介して該ディスクインターフェイスモジュール、該ホストインターフェイスモジュールおよび該管理モジュールをそれぞれ接続されこれらの該ディスクインターフェイスモジュール、該ホストインターフェイスモジュールおよび該管理モジュールの相互間をデータ転送可能に接続するブリッジモジュールと、

該ディスクインターフェイスモジュールもしくは該ホストインターフェイスモジュールが該インターフェイスバスを用い該ブリッジモジュール経由で該管理モジュールへのデータ転送を行なった際に該ブリッジモジュールから該管理モジュールへのデータ転送を確認するための確認コードを該ブリッジモジュールに設定する確認コード設定手段とをそなえとともに、

該ディスクインターフェイスモジュールおよび該ホストインターフェイスモジュールのうちの少なくとも一方（以下、インターフェイスモジュールという）が、

該管理モジュールへのデータ転送に必要な転送情報とデータ転送確認フラグとを含むデータ転送記述子を設定する記述子設定手段と、

前記データ転送確認フラグがオンの場合、前記確認コードを該ブリッジモジュールから該インターフェイスモジュールへ読み出すために必要な確認コード読出情報を含むデータ転送確認記述子を、該記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に基づいて自動的に生成する記述子生成手段と、

該記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に従って該管理モジュールへのデータ転送を制御するとともに、前記データ転送確認フラグがオンの場合、該管理モジュールへのデータ転送の終了後に、該記述子生成手段によって自動生成された前記データ転送確認記述子における前記確認コード読出情報に従って、該ブ

リッジモジュールからの前記確認コードの読出を制御する制御手段とをそなえて構成されていることを特徴とする、ストレージ制御装置。

【請求項 3】

該インターフェイスモジュールが、

該ブリッジモジュールから読み出された前記確認コードに基づいて該ブリッジモジュールと該管理モジュールとの間のデータ転送の正常／異常を判定する第 1 判定手段と、

該インターフェイスモジュールと該ブリッジモジュールとの間のデータ転送の正常／異常を判定する第 2 判定手段とをさらにそなえて構成されていることを特徴とする、請求項 2 記載のストレージ制御装置。

【請求項 4】

ディスク装置とホストとの間にそなえられ該ホストの該ディスク装置に対するアクセスを制御するストレージ制御装置であって、該ディスク装置もしくは該ホストとのインターフェイスを制御するインターフェイスモジュールと、本ストレージ制御装置全体を統括的に管理する管理モジュールと、インターフェイスバスを介して該インターフェイスモジュールおよび該管理モジュールをそれぞれ接続されこれらの該インターフェイスモジュールおよび該管理モジュールの相互間をデータ転送可能に接続するブリッジモジュールと、該インターフェイスモジュールが該インターフェイスバスを用い該ブリッジモジュール経由で該管理モジュールへのデータ転送を行なった際に該ブリッジモジュールから該管理モジュールへのデータ転送を確認するための確認コードを該ブリッジモジュールに設定する確認コード設定手段とをそなえて構成されたストレージ制御装置において用いられる上記インターフェイスモジュールであって、

該管理モジュールへのデータ転送に必要な転送情報とデータ転送確認フラグとを含むデータ転送記述子を設定する記述子設定手段と、

前記データ転送確認フラグがオンの場合、前記確認コードを該ブリッジモジュールから本インターフェイスモジュールへ読み出すために必要な確認コード読出情報を含むデータ転送確認記述子を、該記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に基づいて自動的に生成する記述子生成手段と、

該記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に従って該管理モジュールへのデータ転送を制御するとともに、前記データ転送確認フラグがオンの場合、該管理モジュールへのデータ転送の終了後に、該記述子生成手段によって自動生成された前記データ転送確認記述子における前記確認コード読出情報に従って、該ブリッジモジュールからの前記確認コードの読出を制御する制御手段とをそなえて構成されていることを特徴とする、ストレージ制御装置用インターフェイスモジュール。

【請求項 5】

該ブリッジモジュールから読み出された前記確認コードに基づいて該ブリッジモジュールと該管理モジュールとの間のデータ転送の正常／異常を判定する第 1 判定手段と、

本インターフェイスモジュールと該ブリッジモジュールとの間のデータ転送の正常／異常を判定する第 2 判定手段とをさらにそなえて構成されていることを特徴とする、請求項 4 記載のストレージ制御装置用インターフェイスモジュール。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 モジュール間データ転送確認機能を有する装置並びにストレージ制御装置および同装置用インターフェイスモジュール

【技術分野】**【0001】**

本発明は、例えばP C I (Peripheral Component Interconnect)バス等のインターフェイスバスを介して接続された複数のモジュールから構成され、これらのモジュール間でのデータ転送を確認するための機能をそなえた装置に関し、より具体的には、物理デバイス（例えば磁気ディスク装置）とホストとの間にそなえられ、このホストの物理デバイスに対するアクセスを制御するストレージ制御装置や、そのストレージ制御装置において用いられるインターフェイスモジュール（例えばホストインターフェイスモジュール、ディスクインターフェイスモジュール）に関する。

【背景技術】**【0002】**

図4は一般的なストレージ装置（ストレージ制御装置）の構成を示すブロック図で、この図4に示すストレージ装置1は、サーバ（ホスト）4からのアクセスに応じて、サーバ4からのデータを書き込んだり、サーバ4から要求されたデータを読み出してサーバ4へ転送したりするものである。

このストレージ装置1は、複数のディスクユニット（ディスク装置、物理デバイス）2aを有するディスクエンクロージャ2と、各ディスクユニット2aとサーバ4との間にそなえられサーバ4の各ディスクユニット2aに対するアクセスを制御するストレージ制御装置3とから構成されている。

【0003】

ストレージ制御装置3は、ディスクインターフェイスモジュール10、ホストインターフェイスモジュール20、管理モジュール30およびP C Iブリッジモジュール40をそなえて構成されている。

ここで、ディスクインターフェイスモジュール10は、ディスクインターフェイスバス54を介してディスクエンクロージャ2における各ディスクユニット2aとのインターフェイス（データ転送）を制御するものである。

【0004】

ホストインターフェイスモジュール20は、ファイバチャネルインターフェイスバス50を介してサーバ4とのインターフェイス（データ転送）を制御するものである。

管理モジュール30は、本ストレージ制御装置3の全体を統括的に管理するもので、サーバ4から各ディスクユニット2aに書き込まれるべきデータや、各ディスクユニット2aからサーバ4へ読み出されるべきデータを一時的に格納するキャッシュメモリを搭載され、このキャッシュメモリの管理を行なうものである。

【0005】

P C Iブリッジモジュール40は、P C Iバス（インターフェイスバス）51, 52, 53を介してディスクインターフェイスモジュール10、ホストインターフェイスモジュール20および管理モジュール30をそれぞれ接続され、これらのディスクインターフェイスモジュール10、ホストインターフェイスモジュール20および管理モジュール30の相互間をデータ転送可能に接続するものである。

【0006】

このような構成により、サーバ4からディスクユニット2aへのデータ書込や、ディスクユニット2aからサーバ4へのデータ読出は以下のように実行される。

サーバ4からディスクエンクロージャ2のディスクユニット2aにデータを書き込む際には、まず、書込対象データが、サーバ4からファイバチャネルインターフェイスバス50を介してホストインターフェイスモジュール20へ転送され、このホストインターフェイスモジュール20からP C Iバス52, P C Iブリッジモジュール40およびP C Iバス53を介して管理モジュール30のキャッシュメモリに一時的に格納される（図4中の

矢印A1参照)。この後、管理モジュール30のキャッシュメモリ上の書込対象データは、PCIバス53、PCIブリッジモジュール40およびPCIバス51を介してディスクインターフェイスモジュール10へ転送され、このディスクインターフェイスモジュール10からディスクインターフェイスバス54を介して所定のディスクユニット2aに書き込まれることになる(図4中の矢印A2参照)。

【0007】

逆に、ディスクエンクロージャ2のディスクユニット2aからサーバ4へデータを読み出す際には、まず、読出対象データが、そのデータを保持するディスクユニット2aからディスクインターフェイスバス54を介してディスクインターフェイスモジュール10へ転送され、このディスクインターフェイスモジュール10からPCIバス51、PCIブリッジモジュール40およびPCIバス53を介して管理モジュール30のキャッシュメモリに一時的に格納される(図4中の矢印A3参照)。この後、管理モジュール30のキャッシュメモリ上の読出対象データは、PCIバス53、PCIブリッジモジュール40およびPCIバス52を介してホストインターフェイスモジュール20へ転送され、このホストインターフェイスモジュール20からファイバチャネルインターフェイスバス50を介してサーバ4へ読み出されることになる(図4中の矢印A4参照)。

【0008】

次に、図5に示すブロック図を参照しながら、図4に示したストレージ制御装置3におけるディスクインターフェイスモジュール10およびホストインターフェイスモジュール20の構成について説明する。ディスクインターフェイスモジュール10とホストインターフェイスモジュール20とは、基本的に同一の構成を有しているが、ホストインターフェイスモジュール20には、ファイバチャネルインターフェイスバス50からの光信号を電気信号に変換する機能や、ホストインターフェイスモジュール10における電気信号を光信号に変換してファイバチャネルインターフェイスバス50へ送出する機能がそなえられ、ディスクインターフェイスモジュール10にはこれらの機能がそなえられていない点で異なっている。

【0009】

図5に示すように、ディスクインターフェイスモジュール10およびホストインターフェイスモジュール20(以下、単にインターフェイスモジュール10、20という場合がある)は、CPU11、チップセット12、メモリ13、インターフェイスモジュールLSI14、データバッファ15およびファイバチャネルチップ16をそなえて構成されている。

【0010】

CPU(Central Processing Unit)11は、本インターフェイスモジュール10、20を統括的に管理する第1処理部として機能するものである。

チップセット(Chip Set)12は、CPU11を他デバイス(例えばメモリ13)に繋ぐための機能や、PCIバス17に接続するための機能を有している。CPU11は、このチップセット12を介してメモリ13に接続されるとともに、さらにチップセット12およびPCIバス17を介してインターフェイスモジュールLSI14に接続されている。なお、メモリ13は、例えばSDRAM(Synchronous Dynamic Random Access Memory)によって構成されている。

【0011】

インターフェイスモジュールLSI(Large Scale Integration)14は、CPU11からの指示に応じ、PCIバス51、52を介して本インターフェイスモジュール10、20とPCIブリッジモジュール30との間のデータ転送の制御を行なう第2処理部(第2転送処理部)として機能するもので、このインターフェイスモジュールLSI14には、データバッファ15が付設されている。

【0012】

このデータバッファ15は、例えばDDR(Double Data Rate)-SDRAMによって構成され、PCIブリッジモジュール40へ転送すべきデータや、PCIブリッジモジュール

ル 40 から転送されてきたデータなどを一時的に格納するものである。

また、インターフェイスモジュール L S I 14 には、P C I バス 51, 52 を介して P C I ブリッジモジュール 40 が接続され、P C I バス (インターフェイスバス) 17 を介してチップセット 12 が接続され、P C I バス (インターフェイスバス) 18 を介してファイバチャネルチップ 16 が接続されている。

【0013】

さらに、インターフェイスモジュール L S I 14 には、D M A C (Direct Memory Access Controller; 制御手段) としての機能がそなえられており、図 6 や図 7 を参照しながら後述するごとく、C P U 11 は、通常、所定の制御プログラムを実行することにより、ディスクリプタ (記述子) をインターフェイスモジュール L S I 14 における D M A C に設定し、インターフェイスモジュール L S I 14 に、データ転送や後述する確認コード (A A コード) の読出を実行させるようになっている。

【0014】

ファイバチャネルチップ (F C -Chip) 16 は、ファイバチャネルインターフェイスバス 50 もしくはディスクインターフェイスバス 54 を介して本インターフェイスモジュール 10, 20 と各ディスクユニット 2 a もしくはサーバ 4 との間のデータ転送を制御する第 1 転送処理部として機能するものである。

このようなインターフェイスモジュール 10, 20 が、管理モジュール 30 のキャッシュメモリにデータを転送する際には、図 4 を参照しながら前述したように、そのデータを、P C I バス 51 ~ 53 を用い P C I ブリッジモジュール 40 を経由させることになる。このとき、インターフェイスモジュール 10, 20 は、P C I バス 51, 52 により P C I ブリッジモジュール 40 へデータが正常に転送されたか否かを確認することはできるが、P C I ブリッジモジュール 40 から管理モジュール 30 へデータが正常に転送されたか否かを確認することができない。このことは、信頼性を要求されるシステムにおいては問題となるため、インターフェイスモジュール 10, 20 が、P C I ブリッジモジュール 40 から管理モジュール 30 へのデータ転送も正常に行なわれたか否かを確認できるようにする必要がある。

【0015】

そこで、下記特許文献 1 (特開 2001-243206 号公報) では、P C I ブリッジモジュール 40 から管理モジュール 30 への P C I 転送の正常終了確認 (A A : Access Assurance) をデータ転送後に別途行なう手法が提案されている。この手法を実現するに当たって、P C I ブリッジモジュール 40 には、確認コード設定手段 41 (図 4 参照) としての機能がそなえられている。この確認コード設定手段 41 は、インターフェイスモジュール 10, 20 が P C I バス 51 ~ 53 を用い P C I ブリッジモジュール 40 経由で管理モジュール 30 へのデータ転送を行なった際に、P C I ブリッジモジュール 40 から管理モジュール 30 へのデータ転送を確認するための確認コード (A A コード) を P C I ブリッジモジュール 40 に設定するものである。そして、インターフェイスモジュール 10, 20 は、データ転送後に P C I ブリッジモジュール 40 から上記確認コードを読み出すことにより、P C I ブリッジモジュール 40 から管理モジュール 30 へのデータ転送が正常に行なわれたか否かについて判断し、その判断結果に応じた処理 (正常終了もしくはデータ再転送) を行なうようになっている。

【0016】

以下に、図 6 および図 7 を参照しながら、上記手法についてより詳細に説明する。

まず、図 6 に示すシーケンス図 (ステップ S 11 ~ S 35) を参照しながら、上述したストレージ制御装置 3 の正常時動作について説明する。C P U 11 は、データ転送を開始するに当たり、転送すべきデータ単位 (データブロック) 毎にデータ転送用ディスクリプタおよび確認コード読出用ディスクリプタ (データ転送確認記述子) をインターフェイスモジュール L S I 14 (D M A C) に設定するとともに (D S C 設定; ステップ S 11)、D M A を起動する (ステップ S 12)。

【0017】

ここで、ディスクリプタ (D S C : descriptor ; 記述子) は、DMA 転送に必要な情報一式を有するもので、データ転送用ディスクリプタは、管理モジュール 30 へのデータ転送に必要な転送情報 (例えば、転送長、転送元アドレス、転送先アドレス、その他の付加情報) を含んでおり、確認コード読出用ディスクリプタは、確認コードを P C I ブリッジモジュール 40 からインターフェイスモジュール 10, 20 へ読み出すために必要な確認コード読出情報 (例えば、転送長、転送元アドレス、転送先アドレス、その他の付加情報) を含んでいる。図 6 および図 7 では、3 つのデータ単位 (データ 1, 2, 3) を連続的に転送する例が示されており、この場合、ステップ S 11 では、3 つのデータ転送用ディスクリプタおよび 3 つの確認コード読出用ディスクリプタを設定する必要がある。

【0018】

C P U 11 から、ディスクリプタを設定され DMA を起動されたインターフェイスモジュール L S I 14 では、データ単位毎にデータ転送用ディスクリプタがロードされ (D S C ロード ; ステップ S 13, S 19, S 25)、ロードされたデータ転送用ディスクリプタに従って各データがインターフェイスモジュール L S I 14 から P C I ブリッジモジュール 40 経由で管理モジュール 30 へ順次転送される (ステップ S 14, S 15, S 20, S 21, S 26, S 27)。各データの転送を完了すると、引き続き、確認コード読出用ディスクリプタがロードされ (ステップ S 16, S 22, S 28)、ロードされた確認コード読出用ディスクリプタに従って、各データについての確認コード (A A code 1, 2, 3) が、P C I ブリッジモジュール 40 から取得され (ステップ S 17, S 23, S 29)、データバッファ 15 に格納される (ステップ S 18, S 24, S 30)。

【0019】

このようにして 3 つのデータ単位の転送を完了すると、インターフェイスモジュール L S I 14 から C P U 11 に対して終了通知 (割り込み) が行なわれる (ステップ S 31)。終了通知を受けた C P U 11 は、インターフェイスモジュール L S I 14 からステータスを読み出し (ステップ S 32)、そのステータスに基づいて、インターフェイスモジュール 10, 20 と P C I ブリッジモジュール 40 との間のデータ転送の正常 / 異常を判定する (ステップ S 33)。このステップ S 32 で正常判定がなされた場合、C P U 11 は、インターフェイスモジュール L S I 14 (データバッファ 15) から確認コードを読み出し (ステップ S 34)、その確認コードに基づいて、P C I ブリッジモジュール 40 と管理モジュール 30 との間のデータ転送の正常 / 異常を判定する (ステップ S 35)。図 6 に示すシーケンス図は、データ転送が正常に行なわれた時のストレージ制御装置 3 の動作を示しており、ステップ S 35 で正常判定がなされ、一連のデータ転送を完了する。

【0020】

次に、図 7 に示すシーケンス図 (ステップ S 11 ~ S 34, S 36, S 37, S 11', S 12', S 19' ~ S 35') を参照しながら、上述したストレージ制御装置 3 の異常時動作について説明する。なお、図 7 において、図 6 と同一の符号を付されたステップは、同一もしくはほぼ同一の処理を実行するステップであり、その詳細な説明は省略する。また、図 7 において、データの再転送にかかるステップ符号には「'」を付している。

【0021】

図 7 に示す例でも、図 6 と同様の手順 (ステップ S 11 ~ S 34) で 3 つのデータ単位の転送および確認コードの取得が行なわれるが、この図 7 に示す例では、2 番目のデータ 2 の転送時に P C I ブリッジモジュール 40 と管理モジュール 30 との間で転送エラーが発生し、データ 2 の転送が異常終了した場合について説明する。

C P U 11 は、ステップ S 34 で、インターフェイスモジュール L S I 14 (データバッファ 15) から読み出された確認コードに基づいて異常判定をすると、確認コード (A A code 2) からエラー内容を検出し (ステップ S 36)、データ 2 の転送エラーを確認すると、データ 2 以降のデータ単位 (ここでは 2 つのデータ 2, 3) の再転送を実行する (ステップ S 37)。

【0022】

再転送に際して、CPU 11は、再び、再転送すべき2つのデータ2, 3についてデータ転送用ディスクリプタおよび確認コード読出用ディスクリプタをインターフェイスモジュールLSI 14 (DMAC) に設定するとともに(ステップS 11')、DMAを起動する(ステップS 12')。そして、図6に示した手順(ステップS 19~S 30)と同様にしてデータ2, 3の転送および確認コード(AA code 2,3)の取得・格納が行なわれる(ステップS 19'~S 30')。

【0023】

このようにして2つのデータ単位の再転送を完了すると、ステップS 31~S 35と同様の処理(終了通知、ステータスや確認コードの読出、正常/異常判定; ステップS 31'~S 35')が実行され、ステップS 35'で正常判定がなされると、一連のデータ転送を完了する。

【特許文献1】特開2001-243206号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0024】

しかしながら、図6および図7に示す手法では、CPU 11において、転送対象のデータ単位毎に、2種類のディスクリプタ(データ転送用および確認コード読出用)を設定する必要があるほか、CPU 11が、インターフェイスモジュール10, 20とPCIブリッジモジュール40との間のデータ転送の正常/異常判定と、PCIブリッジモジュール40と管理モジュール30との間のデータ転送の正常/異常判定との両方を実行しなければならない。

【0025】

近年、ホスト(サーバ)4からのデータ転送量の増大に伴い、データ単位毎に確認コード読出用ディスクリプタを設定するのは、CPU 11に大きな負荷がかかるとともにPCIアクセスに時間がかかり、確認コード読出用ディスクリプタの設定処理が大きなオーバーヘッドとなり入出力性能の劣化の要因になっている。

また、全ての正常/異常判定をCPU 11で実行することにより、CPU 11に大きな負荷がかかるとともにPCIアクセスに時間がかかり、やはり、その判定処理が大きなオーバーヘッドとなり入出力性能の劣化の要因になっている。

【0026】

本発明は、このような課題に鑑み創案されたもので、確認コード読出用ディスクリプタを自動生成できるようにして確認コード読出用ディスクリプタの設定処理を省略し、CPU負荷の低減およびPCIアクセス数の削減をはかり、入出力性能の向上を実現することを目的としている。また、本発明は、データ転送の正常/異常判定を分散して実行できるようにするほか、データ転送の正常確認時における異常状態収集をプログラムの負担無く行なえるようにして、さらなるCPU負荷の低減およびPCIアクセス数の削減をはかり、入出力性能の向上を実現することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0027】

上記目的を達成するために、本発明のモジュール間データ転送確認機能を有する装置(請求項1)は、第1モジュールと、第2モジュールと、インターフェイスバスを介して該第1モジュールおよび該第2モジュールをそれぞれ接続され該第1モジュールと該第2モジュールとの相互間をデータ転送可能に接続するブリッジモジュールと、該第1モジュールが該インターフェイスバスを用い該ブリッジモジュール経由で該第2モジュールへのデータ転送を行なった際に該ブリッジモジュールから該第2モジュールへのデータ転送を確認するための確認コードを該ブリッジモジュールに設定する確認コード設定手段とをそなえるとともに、該第1モジュールが、該第2モジュールへのデータ転送に必要な転送情報とデータ転送確認フラグとを含むデータ転送記述子を設定する記述子設定手段と、前記データ転送確認フラグがオンの場合、前記確認コードを該ブリッジモジュールから該第1モジュールへ読み出すために必要な確認コード読出情報を含むデータ転送確認記述子を、該

記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に基づいて自動的に生成する記述子生成手段と、該記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に従って該第2モジュールへのデータ転送を制御するとともに、前記データ転送確認フラグがオンの場合、該第2モジュールへのデータ転送の終了後に、該記述子生成手段によって自動生成された前記データ転送確認記述子における前記確認コード読出情報に従って、該ブリッジモジュールからの前記確認コードの読出を制御する制御手段とをそなえて構成されていることを特徴としている。

【0028】

ここで、該第1モジュールが、該第1モジュールを統括的に管理する第1処理部と、該第1処理部からの指示に応じて該インターフェイスバスを介してデータ転送を行なう第2処理部とをそなえて構成され、該第1処理部が、該記述子設定手段としての機能を果たすとともに、該第2処理部が、該記述子生成手段および該制御手段としての機能を果たすように構成してもよい。

【0029】

また、該第1モジュールが、該ブリッジモジュールから読み出された前記確認コードに基づいて該ブリッジモジュールと該第2モジュールとの間のデータ転送の正常／異常を判定する第1判定手段と、該第1モジュールと該ブリッジモジュールとの間のデータ転送の正常／異常を判定する第2判定手段とをさらにそなえて構成されていてもよい。このとき、該第1判定手段により異常判定がなされた場合、該記述子生成手段が、詳細エラー情報を該ブリッジモジュールから該第1モジュールへ読み出すために必要なエラー読出情報を含むエラー読出記述子を自動生成するとともに、該制御手段が、該記述子生成手段によって自動生成された前記エラー読出記述子における前記エラー読出情報に従って、該ブリッジモジュールからの前記詳細エラー情報の読出を制御してもよい。また、該第1モジュールが、該第1モジュールを統括的に管理する第1処理部と、該第1処理部からの指示に応じて該インターフェイスバスを介してデータ転送を行なう第2処理部とをそなえて構成され、該第1処理部が、該記述子設定手段および第2判定手段としての機能を果たすとともに、該第2処理部が、該記述子生成手段、該制御手段および第1判定手段としての機能を果たすように構成してもよい。そして、該第2判定手段により異常判定がなされた場合、該第1処理部が、該ブリッジモジュールから読み出された前記詳細エラー情報を該第2処理部から取得し、その詳細エラー情報に基づいてデータ再送を該第2処理部に対して指示してもよい。

【0030】

さらに、該第1モジュールから複数のデータブロックを該第2モジュールへ連続的に転送する場合、該記述子設定手段が、前記複数のデータブロックのうちの最後のデータブロックを転送するためのデータ転送記述子における前記データ転送確認フラグのみをオンに設定してもよい。

なお、上述した装置において、該インターフェイスバスはP C Iバスであってもよいし、該第1モジュールと該第2モジュールとの間のデータ転送が、該制御手段によって制御されるDMA転送として行なわれ、該記述子設定手段によって設定される記述子および該記述子生成手段によって自動生成される記述子が、DMA転送に必要な情報一式を有するディスクリプタであってもよい。

【0031】

本発明のストレージ制御装置（請求項2）は、ディスク装置とホストとの間にそなえられ該ホストの該物理デバイスに対するアクセスを制御するものであって、該ディスク装置とのインターフェイスを制御するディスクインターフェイスモジュールと、該ホストとのインターフェイスを制御するホストインターフェイスモジュールと、本装置全体を統括的に管理する管理モジュールと、インターフェイスバスを介して該ディスクインターフェイスモジュール、該ホストインターフェイスモジュールおよび該管理モジュールをそれぞれ接続されこれらの該ディスクインターフェイスモジュール、該ホストインターフェイスモジュールおよび該管理モジュールの相互間をデータ転送可能に接続するブリッジモジュール

ルと、該ディスクインターフェイスモジュールもしくは該ホストインターフェイスモジュールが該インターフェイスバスを用い該ブリッジモジュール経由で該管理モジュールへのデータ転送を行なった際に該ブリッジモジュールから該管理モジュールへのデータ転送を確認するための確認コードを該ブリッジモジュールに設定する確認コード設定手段とをそなえとともに、該ディスクインターフェイスモジュールおよび該ホストインターフェイスモジュールのうちの少なくとも一方（以下、単にインターフェイスモジュールという）が、該管理モジュールへのデータ転送に必要な転送情報とデータ転送確認フラグとを含むデータ転送記述子を設定する記述子設定手段と、前記データ転送確認フラグがオンの場合、前記確認コードを該ブリッジモジュールから該インターフェイスモジュールへ読み出すために必要な確認コード読出情報を含むデータ転送確認記述子を、該記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に基づいて自動的に生成する記述子生成手段と、該記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に従って該管理モジュールへのデータ転送を制御するとともに、前記データ転送確認フラグがオンの場合、該管理モジュールへのデータ転送の終了後に、該記述子生成手段によって自動生成された前記データ転送確認記述子における前記確認コード読出情報に従って、該ブリッジモジュールからの前記確認コードの読出を制御する制御手段とをそなえて構成されていることを特徴としている。

【0032】

ここで、該インターフェイスモジュールが、該インターフェイスモジュールを統括的に管理する第1処理部と、該第1処理部からの指示に応じて該インターフェイスバスを介してデータ転送を行なう第2処理部とをそなえて構成され、該第1処理部が、該記述子設定手段としての機能を果たすとともに、該第2処理部が、該記述子生成手段および該制御手段としての機能を果たすように構成してもよい。

【0033】

また、該インターフェイスモジュールが、該ブリッジモジュールから読み出された前記確認コードに基づいて該ブリッジモジュールと該管理モジュールとの間のデータ転送の正常／異常を判定する第1判定手段と、該インターフェイスモジュールと該ブリッジモジュールとの間のデータ転送の正常／異常を判定する第2判定手段とをさらにそなえて構成されていてもよい（請求項3）。このとき、該第1判定手段により異常判定がなされた場合、該記述子生成手段が、詳細エラー情報を該ブリッジモジュールから該インターフェイスモジュールへ読み出すために必要なエラー読出情報を含むエラー読出記述子を自動生成するとともに、該制御手段が、該記述子生成手段によって自動生成された前記エラー読出記述子における前記エラー読出情報に従って、該ブリッジモジュールからの前記詳細エラー情報の読出を制御してもよい。また、該インターフェイスモジュールが、該インターフェイスモジュールを統括的に管理する第1処理部と、該第1処理部からの指示に応じて該インターフェイスバスを介してデータ転送を行なう第2処理部とをそなえて構成され、該第1処理部が、該記述子設定手段および第2判定手段としての機能を果たすとともに、該第2処理部が、該記述子生成手段、該制御手段および第1判定手段としての機能を果たすように構成してもよい。そして、該第2判定手段により異常判定がなされた場合、該第1処理部が、該ブリッジモジュールから読み出された前記詳細エラー情報を該第2処理部から取得し、その詳細エラー情報に基づいてデータ再送を該第2処理部に対して指示してもよい。

【0034】

さらに、該インターフェイスモジュールから複数のデータブロックを該管理モジュールへ連続的に転送する場合、該記述子設定手段が、前記複数のデータブロックのうちの最後のデータブロックを転送するためのデータ転送記述子における前記データ転送確認フラグのみをオンに設定してもよい。

なお、上述したストレージ制御装置において、該インターフェイスバスはP C Iバスであってもよいし、該インターフェイスモジュールと該管理モジュールとの間のデータ転送が、該制御手段によって制御されるDMA転送として行なわれ、該記述子設定手段によっ

て設定される記述子および該記述子生成手段によって自動生成される記述子が、DMA 転送に必要な情報一式を有するディスクリプタであってもよい。

【0035】

本発明のストレージ制御装置用インターフェイスモジュール（請求項 4，5）は、上述したストレージ制御装置において用いられるものであって、上述したストレージ制御装置におけるインターフェイスモジュールと同様に構成されるものである。

【発明の効果】

【0036】

上述した本発明のモジュール間データ転送確認機能を有する装置並びにストレージ制御装置および同装置用インターフェイスモジュールによれば、データ転送記述子に設定されるデータ転送確認フラグがオンの場合、データ転送確認記述子がデータ転送記述子における転送情報に基づいて自動生成され、前記データ転送記述子に従って管理モジュール（第 2 モジュール）へのデータ転送が行なわれるとともに、管理モジュールへのデータ転送の終了後に、前記データ転送確認記述子に従ってブリッジモジュールから確認コードが読み出されるので、従来行なわれていた確認コード読出用ディスクリプタの設定処理を省略することができ、CPU 負荷が大幅に低減されるとともに PCI アクセス数が大幅に削減され、入出力性能が大幅に向上することになる。

【0037】

また、2 種類のデータ転送の正常／異常判定が第 1 処理部と第 2 処理部とに分散されて実行されるほか、エラー発生時には、エラー読出記述子が自動生成され、このエラー読出記述子に従ってブリッジモジュールから詳細エラー情報が読み出され、データ転送の正常確認時における異常状態収集をプログラムの負担無く行なえるので、さらなる CPU 負荷の低減および PCI アクセス数の削減を達成でき、入出力性能のさらなる向上を実現することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0038】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態を説明する。

〔1〕本発明の一実施形態の説明

本発明の一実施形態としてのストレージ装置 1 A も、図 4 に示すように、基本的に一般的なストレージ装置 1 とほぼ同様に構成されている。つまり、本実施形態のストレージ装置 1 A も、サーバ（ホスト）4 からのアクセスに応じて、サーバ 4 からのデータを書き込んだり、サーバ 4 から要求されたデータを読み出してサーバ 4 へ転送したりするものである。そして、このストレージ装置 1 A も、複数のディスクユニット（ディスク装置、物理デバイス）2 a を有するディスクエンクロージャ 2 と、各ディスクユニット 2 a とサーバ 4 との間にそなえられサーバ 4 の各ディスクユニット 2 a に対するアクセスを制御するストレージ制御装置 3 A とから構成されている。

【0039】

そして、本実施形態のストレージ制御装置 3 A も、図 4 に示すように、基本的に一般的なストレージ制御装置 3 とほぼ同様に、ディスクインターフェイスモジュール 10 A，ホストインターフェイスモジュール 20 A，管理モジュール 30 および PCI ブリッジモジュール 40 A をそなえて構成されている。

ここで、ディスクインターフェイスモジュール（第 1 モジュール）10 A は、ディスクインターフェイスバス 54 を介してディスクエンクロージャ 2 における各ディスクユニット 2 a とのインターフェイス（データ転送）を制御するものである。

【0040】

ホストインターフェイスモジュール（第 1 モジュール）20 A は、ファイバチャネルインターフェイスバス 50 を介してサーバ 4 とのインターフェイス（データ転送）を制御するものである。

管理モジュール（第 2 モジュール）30 は、本ストレージ制御装置 3 A の全体を統括的に管理するもので、サーバ 4 から各ディスクユニット 2 a に書き込まれるべきデータや、

各ディスクユニット 2 a からサーバ 4 へ読み出されるべきデータを一時的に格納するキャッシュメモリを搭載され、このキャッシュメモリの管理を行なうものである。

【0041】

PCIブリッジモジュール（ブリッジモジュール）40Aは、PCIバス（インターフェイスバス）51, 52, 53を介してディスクインターフェイスモジュール10A, ホストインターフェイスモジュール20Aおよび管理モジュール30をそれぞれ接続され、これらのディスクインターフェイスモジュール10A, ホストインターフェイスモジュール20Aおよび管理モジュール30の相互間をデータ転送可能に接続するものである。

【0042】

このPCIブリッジモジュール40Aには、前述と同様の確認コード設定手段41としての機能がそなえられている。この確認コード設定手段41は、インターフェイスモジュール10A, 20AがPCIバス51~53を用いPCIブリッジモジュール40A経由で管理モジュール30へのデータ転送を行なった際に、PCIブリッジモジュール40Aから管理モジュール30へのデータ転送を確認するための確認コード（AAコード）をPCIブリッジモジュール40Aに設定するものである。そして、インターフェイスモジュール10A, 20Aは、データ転送後にPCIブリッジモジュール40Aから上記確認コードを読み出すことにより、PCIブリッジモジュール40Aから管理モジュール30へのデータ転送が正常に行なわれたか否かについて判断し、その判断結果に応じた処理（正常終了もしくはデータ再転送）を行なうようになっている。

【0043】

さらに、本実施形態のPCIブリッジモジュール40Aには、このPCIブリッジモジュール40Aと管理モジュール30との間のデータ転送に際してエラーが発生した場合にそのエラーのアドレスを記憶・保持する機能が新たにそなえられている。

このような構成により、本実施形態のストレージ制御装置3Aにおいても、サーバ4からディスクユニット2aへのデータ書込や、ディスクユニット2aからサーバ4へのデータ読出が、上述したストレージ制御装置3と同様の手順（図4中の矢印A1~A4参照）で実行される。

【0044】

次に、図1に示すブロック図を参照しながら、本実施形態としてのストレージ制御装置3Aにおけるディスクインターフェイスモジュール10Aおよびホストインターフェイスモジュール20Aの構成について説明する。ディスクインターフェイスモジュール10Aとホストインターフェイスモジュール20Aとは、基本的に同一の構成を有しているが、ホストインターフェイスモジュール20Aには、ファイバチャネルインターフェイスバス50からの光信号を電気信号に変換する機能や、ホストインターフェイスモジュール20Aにおける電気信号を光信号に変換してファイバチャネルインターフェイスバス50へ送出する機能がそなえられ、ディスクインターフェイスモジュール10Aにはこれらの機能がそなえられていない点で異なっている。

【0045】

図1に示すように、ディスクインターフェイスモジュール10Aおよびホストインターフェイスモジュール20A（以下、単にインターフェイスモジュール10A, 20Aという場合がある）は、CPU11A, チップセット12, メモリ13, インターフェイスモジュールLSI14A, データバッファ15およびファイバチャネルチップ16をそなえて構成されている。

【0046】

CPU（Central Processing Unit）11Aは、本インターフェイスモジュール10A, 20Aを統括的に管理する第1処理部として機能するものであり、本実施形態では、ディスクリプタ設定手段111および第2判定手段112としての機能も果たすように構成されている。

ディスクリプタ設定手段（記述子設定手段）111は、転送すべきデータ単位（データブロック）毎に、管理モジュール30へのデータ転送に必要な転送情報とデータ転送確認

フラグとを含むデータ転送用ディスクリプタ（データ転送記述子）を、インターフェイスモジュールLSI14AのDMAC（制御手段142）に設定するものである。

【0047】

ここで、ディスクリプタ（DSC：descriptor；記述子）は、DMA転送に必要な情報一式を有するもので、データ転送用ディスクリプタにおいては、管理モジュール30へのデータ転送に必要な転送情報として、例えば、転送長、転送元アドレス、転送先アドレス、その他の付加情報が記述されている。そして、その他の付加情報の一つとして、後述する確認コード読出用ディスクリプタ（データ転送確認記述子）の自動生成をインターフェイスモジュールLSI14Aに指示する場合にオン設定（“1”に設定）される前記データ転送確認フラグが設定される。

【0048】

また、本実施形態では、複数のデータブロック（データ単位）をインターフェイスモジュール10A、20Aから管理モジュール30へ連続的に転送する場合、ディスクリプタ記述手段111は、これらのデータブロックのうちの最後のデータブロックを転送するためのデータ転送用ディスクリプタにおけるデータ転送確認フラグのみをオン（“1”）に設定するようになっている。これは、PCIブリッジモジュール40Aが、前述したような新機能（PCIブリッジモジュール40Aと管理モジュール30との間のデータ転送に際してエラーが発生した場合にそのエラーのアドレスを記憶・保持する機能）をそなえたことに対応したものである。

【0049】

第2判定手段112は、図2や図3を参照しながら後述するごとく、インターフェイスモジュールLSI14Aから読み出されたステータスに基づいて、インターフェイスモジュール10A、20AとPCIブリッジモジュール40Aとの間のデータ転送の正常／異常を判定するものである。

この第2判定手段112により異常判定がなされた場合、図3を参照しながら後述するごとく、CPU11Aは、インターフェイスモジュールLSI14AによってPCIブリッジモジュール40Aから読み出された詳細エラー情報をインターフェイスモジュールLSI14Aから取得し、その詳細エラー情報に基づいてデータ再送をインターフェイスモジュールLSI14Aに対して指示する。つまり、ディスクリプタ設定手段111が機能することにより、再送対象のデータブロックについてのデータ転送用ディスクリプタがインターフェイスモジュールLSI14Aに設定されるようになっている。

【0050】

チップセット（Chip Set）12は、CPU11Aを他デバイス（例えばメモリ13）に繋ぐための機能や、PCIバス17に接続するための機能を有している。CPU11Aは、このチップセット12を介してメモリ13に接続されるとともに、さらにチップセット12およびPCIバス17を介してインターフェイスモジュールLSI14Aに接続されている。なお、メモリ13は、例えばSDRAM（Synchronous Dynamic Random Access Memory）によって構成されている。

【0051】

インターフェイスモジュールLSI（Large Scale Integration）14Aは、CPU11Aからの指示に応じ、PCIバス51、52を介して本インターフェイスモジュール10A、20AとPCIブリッジモジュール30との間のデータ転送の制御を行なう第2処理部（第2転送処理部）として機能するもので、このインターフェイスモジュールLSI14Aには、データバッファ15が付設されている。このデータバッファ15は、例えばDDR（Double Data Rate）-SDRAMによって構成され、PCIブリッジモジュール40Aへ転送すべきデータや、PCIブリッジモジュール40Aから転送されてきたデータなどを一時的に格納するものである。

【0052】

また、インターフェイスモジュールLSI14Aには、PCIバス51、52を介してPCIブリッジモジュール40Aが接続され、PCIバス（インターフェイスバス）1

7を介してチップセット12が接続され、P C Iバス（インターフェイスバス）18を介してファイバチャネルチップ16が接続されている。

さらに、本実施形態のインターフェイスモジュール—L S I 14 Aには、ディスクリプタ生成手段141、制御手段（DMAC : Direct Memory Access Controller）142および第1判定手段143としての機能がそなえられている。

【0053】

ディスクリプタ生成手段（記述子生成手段）141は、データ転送用ディスクリプタにおける前記データ転送確認フラグがオン（“1”）の場合、前記確認コード（AAコード）をP C Iブリッジモジュール40 Aからインターフェイスモジュール10 A、20 Aへ読み出すために必要な確認コード読出情報を含む確認コード読出用ディスクリプタ（データ転送確認記述子）を、C P U 11 Aのディスクリプタ設定手段111によって設定されたデータ転送用ディスクリプタにおける転送情報に基づいて自動的に生成し、制御手段（DMAC）142に設定するものである。この確認コード読出用ディスクリプタに記述される、確認コード（AAコード）のP C Iブリッジモジュール40 A側アドレスは、データ転送先アドレスから限定条件として決定される。

【0054】

制御手段142は、DMACとしての機能を果たすもので、C P U 11 Aのディスクリプタ設定手段111によって設定されたデータ転送用ディスクリプタ（前記転送情報）に従って管理モジュール30へのデータ転送を制御するとともに、データ転送用ディスクリプタにおける前記データ転送確認フラグがオン（“1”）の場合、管理モジュール30へのデータ転送の終了後に、ディスクリプタ生成手段141によって自動生成された前記確認コード読出用ディスクリプタにおける前記確認コード読出情報に従って、P C Iブリッジモジュール40 Aからの確認コード（AAコード）の読出を制御するものである。

【0055】

第1判定手段143は、P C Iブリッジモジュール40 Aから読み出された前記確認コードに基づいてP C Iブリッジモジュール40 Aと管理モジュール30との間のデータ転送の正常／異常を判定するものである。

そして、第1判定手段143により異常判定がなされた場合、ディスクリプタ生成手段141が、詳細エラー情報（エラーアドレス）をP C Iブリッジモジュール40 Aからインターフェイスモジュール10、20へ読み出すために必要なエラー読出情報を含むエラー読出用ディスクリプタ（エラー読出記述子）を自動生成するとともに、制御手段142が、ディスクリプタ生成手段141によって自動生成されたエラー読出用ディスクリプタ（前記エラー読出情報）に従って、P C Iブリッジモジュール40 Aからの前記詳細エラー情報の読出を制御するようになっている。

【0056】

ファイバチャネルチップ（F C -Chip）16は、ファイバチャネルインターフェイスバス50もしくはディスクインターフェイスバス54を介して本インターフェイスモジュール10 A、20 Aと各ディスクユニット2 aもしくはサーバ4との間のデータ転送を制御する第1転送処理部として機能するものである。

次に、図2および図3を参照しながら、上述のごとく構成された本実施形態のストレージ制御装置3 A（インターフェイスモジュール10 A、20 A）の動作について詳細に説明する。

【0057】

まず、図2に示すシーケンス図（ステップS 51～S 73）を参照しながら、上述したストレージ制御装置3 Aの正常時動作について説明する。C P U 11は、データ転送を開始するに当たり、ディスクリプタ設定手段111としての機能により、転送すべきデータ単位（データブロック）毎に、前述したデータ転送用ディスクリプタをインターフェイスモジュール—L S I 14 Aの制御手段（DMAC）142に設定するとともに（D S C 設定；ステップS 51）、DMAを起動する（ステップS 52）。

【0058】

ここで、図2および図3では、図6および図7に示した例と同様、3つのデータ単位（データ1, 2, 3）を連続的に転送する例が示されており、この場合、ステップS51では、3つのデータ転送用ディスクリプタを設定することになる。また、その際、各データ転送用ディスクリプタの付加情報として、前述したデータ転送確認フラグが設定される。本実施形態のごとくPCIブリッジモジュール40Aが上記新機能を有している場合、前述したように、上記3つのデータ単位のうちの最後のデータ単位（データ3）を転送するためのデータ転送用ディスクリプタにおけるデータ転送確認フラグのみがオン（“1”）に設定され、その他のデータ単位（データ1, 2）を転送するためのデータ転送用ディスクリプタにおけるデータ転送確認フラグはオフ（“0”）に設定される。PCIブリッジモジュール40Aが上記新機能を有していない場合には、データ単位を転送するための全てのデータ転送用ディスクリプタにおけるデータ転送確認フラグがオン（“1”）に設定される。

【0059】

図2では、最後のデータ転送用ディスクリプタにおけるデータ転送確認フラグのみをオン（“1”）に設定した場合に実行される処理と、全てのデータ転送用ディスクリプタにおけるデータ転送確認フラグをオン（“1”）に設定した場合に実行される処理との両方が図示されているが、図2に示した処理のうちステップS56, S57, S58, S62, S63, S64の処理は、全てのデータ転送用ディスクリプタにおけるデータ転送確認フラグをオン（“1”）に設定した場合にのみ実行され、最後のデータ転送用ディスクリプタにおけるデータ転送確認フラグのみをオン（“1”）に設定した場合には省略される。また、図3では、最後のデータ転送用ディスクリプタにおけるデータ転送確認フラグのみをオン（“1”）に設定した場合に実行される処理のみが図示されている。

【0060】

さて、CPU11から、データ転送用ディスクリプタを設定されDMAを起動されたインターフェイスモジュールLSI14Aでは、データ単位毎にデータ転送用ディスクリプタがロードされ（DSCロード；ステップS53, S59, S65）、制御手段（DMAC）142としての機能により、ロードされたデータ転送用ディスクリプタに従って各データがインターフェイスモジュールLSI14からPCIブリッジモジュール40經由で管理モジュール30へ順次転送される（ステップS54, S55, S60, S61, S66, S67）。

【0061】

各データの転送を完了すると、データ転送用ディスクリプタにおけるデータ転送確認フラグがチェックされ、このフラグがオン（“1”）設定されている場合、ディスクリプタ生成手段141としての機能により、確認コード読出用ディスクリプタが、CPU11Aのディスクリプタ設定手段111によって設定されたデータ転送用ディスクリプタにおける転送情報に基づいて自動的に生成され、制御手段（DMAC）142に設定される（DSC生成；ステップS56, S62, S68）。そして、制御手段（DMAC）142としての機能により、自動生成された確認コード読出用ディスクリプタに従って、確認コード（AA code 1, 2, 3の全て、もしくはAA code 3のみ）が、PCIブリッジモジュール40Aから取得され（ステップS57, S63, S69）、第1判定手段143としての機能により、PCIブリッジモジュール40Aから取得された確認コードに基づいてPCIブリッジモジュール40Aと管理モジュール30との間のデータ転送の正常／異常が自動的に判定される（ステップS58, S64, S70）。図2に示すシーケンス図は、データ転送が正常に行なわれた時のストレージ制御装置3Aの動作を示しており、ステップS58, S64, S70の全て、もしくは、ステップS70のみで正常判定がなされる。

【0062】

このようにして3つのデータ単位の転送を完了すると、インターフェイスモジュールLSI14AからCPU11Aに対して終了通知（割り込み）が行なわれる（ステップS71）。終了通知を受けたCPU11Aは、インターフェイスモジュールLSI14Aからステータスを読み出し（ステップS72）、第2判定手段112としての機能により

、読み出されたステータスに基づいて、インターフェイスモジュール10A、20AとPCIブリッジモジュール40Aとの間のデータ転送の正常/異常が判定される(ステップS73)。前述したように、図2に示すシーケンス図は、データ転送が正常に行なわれた時のストレージ制御装置3Aの動作を示しており、ステップS73では正常判定がなされ、一連のデータ転送を完了する。

【0063】

次に、図3に示すシーケンス図を参照しながら、上述したストレージ制御装置3Aの異常時動作について説明する。なお、図3において、図2と同一の符号を付されたステップは、同一もしくはほぼ同一の処理を実行するステップであり、その詳細な説明は省略する。また、図3において、データの再転送にかかるステップ符号には「'」を付している。

図3に示す例でも、図2と同様の手順(ステップS51~S55、S59~S61、S65~S70)で3つのデータ単位が転送されるとともに最後のデータ単位についての確認コードが取得される。この図3に示す例では、図7に示した例と同様、2番目のデータ2の転送時にPCIブリッジモジュール40と管理モジュール30との間で転送エラーが発生し、データ2の転送が異常終了した場合について説明する。このような異常(エラー)が発生した場合、本実施形態のPCIブリッジモジュール40Aでは、上記新機能により、そのエラーアドレスが保持される(ステップS74)。

【0064】

そして、インターフェイスモジュールLSI14Aにおいて、第1判定手段143としての機能により、PCIブリッジモジュール40Aから取得された確認コードに基づいてPCIブリッジモジュール40Aと管理モジュール30との間のデータ転送が異常終了したことが認識されると(ステップS70)、ディスクリプタ生成手段141としての機能により、エラー読出用ディスクリプタが自動的に生成され制御手段(DMAC)142に設定される(DSC生成;ステップS75)。そして、制御手段(DMAC)142としての機能により、自動生成されたエラー読出用ディスクリプタに従って、詳細エラー情報(エラーアドレス)がPCIブリッジモジュール40Aから読み出される(ステップS76)。

【0065】

このようにしてエラーアドレスを取得すると、インターフェイスモジュールLSI14AからCPU11Aに対して終了通知(割り込み)が行なわれる(ステップS71)。終了通知を受けたCPU11Aは、インターフェイスモジュールLSI14Aからステータスを読み出し(ステップS72)、第2判定手段112としての機能により、読み出されたステータスに基づいて、インターフェイスモジュール10A、20AとPCIブリッジモジュール40Aとの間のデータ転送の正常/異常が判定される(ステップS73)。ここでは、転送エラーが発生したことが検出されて異常判定がなされ、引き続いて、CPU11Aは、インターフェイスモジュールLSI14Aから、ステップS76で取得されたエラーアドレスを読み出し(ステップS77)、そのエラーアドレスに基づいてデータ2の転送中にエラーが発生したことが認識される(ステップS78)。

【0066】

この認識結果に応じて、CPU11Aは、データ2以降のデータ単位(ここでは2つのデータ2、3)の再転送を実行する(ステップS79)。再転送に際して、CPU11Aは、ディスクリプタ設定手段111としての機能により、再び、再転送すべき2つのデータ2、3についてデータ転送用ディスクリプタをインターフェイスモジュールLSI14Aの制御手段(DMAC)142に設定するとともに(ステップS51')、DMAを起動する(ステップS52')。そして、図2に示した手順(ステップS59~S61、S65~S70)と同様にしてデータ2、3の転送および確認コード(AA code 3)の取得・自動判断が行なわれる(ステップS59'~S61'、S65'~S70')。

【0067】

このようにして2つのデータ単位の再転送を完了すると、ステップS71~S73と同様の処理(終了通知、ステータスの読出、正常/異常判定;ステップS71'~S73')

）が実行され、ステップ S 7 3' で正常判定がなされると、一連のデータ転送を完了する。

このように、本発明の一実施形態としてのストレージ制御装置 3 A（インターフェイスモジュール 1 0 A，2 0 A）によれば、データ転送用ディスクリプタに設定されるデータ転送確認フラグがオン（“1”）の場合、インターフェイスモジュール L S I 1 4 A のディスクリプタ生成手段 1 4 1 としての機能により、データ転送確認用ディスクリプタがデータ転送用ディスクリプタにおける転送情報に基づいて自動的に生成され、データ転送用ディスクリプタに従って管理モジュール 3 0 へのデータ転送が行なわれるとともに、管理モジュール 3 0 へのデータ転送の終了後に、データ転送確認用ディスクリプタに従って P C I ブリッジモジュール 4 0 A から確認コードが読み出される。これにより、従来、C P U 1 1 で行なわれていた確認コード読出用ディスクリプタの設定処理を省略することができ、C P U 1 1 A の負荷が大幅に低減されるとともに P C I アクセス数が大幅に削減され、入出力性能が大幅に向上することになる。

【0068】

また、2 種類のデータ転送の正常／異常判定するための判定手段 1 1 2，1 4 3 としての機能がそれぞれ C P U（第 1 処理部）1 1 A およびインターフェイスモジュール L S I（第 2 処理部）1 4 A によって実現されるほか、エラー発生時には、インターフェイスモジュール L S I 1 4 A のディスクリプタ生成手段 1 4 1 としての機能によりエラー読出用ディスクリプタが自動的に生成され、このエラー読出記述子に従って P C I ブリッジモジュール 4 0 A から詳細エラー情報（エラーアドレス）が読み出され、データ転送の正常確認時における異常状態収集をプログラムの負担無く行なえる。これにより、さらなる C P U 1 1 A の負荷の低減および P C I アクセス数の削減を達成でき、入出力性能のさらなる向上を実現することができる。

【0069】

〔2〕その他

なお、本発明は上述した実施形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形して実施することができる。

例えば、上述した実施形態では、本発明をストレージ制御装置に適用した場合について説明したが、本発明は、これに限定されるものではなく、P C I バス等のインターフェイスバスを介して接続された複数のモジュールから構成され、これらのモジュール間でのデータ転送を確認するための機能をそなえた装置であれば、上述した実施形態と同様に適用され、上述した実施形態と同様の作用効果を得ることができる。

【0070】

また、上述した実施形態では、サーバ 4 とストレージ制御装置 3 A との間のインターフェイスがファイバチャネルインターフェイスである場合について説明したが、本発明は、これに限定されるものではない。

さらに、上述したディスクリプタ設定手段 1 1 1，第 2 判定手段 1 1 2，ディスクリプタ生成手段 1 4 1，制御手段 1 4 2 および第 1 判定手段 1 4 3 としての機能は、C P U 1 1 A やインターフェイスモジュール L S I 1 4 A が所定のプログラムを実行することによって実現される。このプログラムは、例えばフレキシブルディスク，C D-R O M，C D-R，C D-R W，D V D 等のコンピュータ読取可能な記録媒体に記録された形態で提供される。

【0071】

〔3〕

（付記 1） 第 1 モジュールと、第 2 モジュールと、インターフェイスバスを介して該第 1 モジュールおよび該第 2 モジュールをそれぞれ接続され該第 1 モジュールと該第 2 モジュールとの相互間をデータ転送可能に接続するブリッジモジュールと、該第 1 モジュールが該インターフェイスバスを用い該ブリッジモジュール経由で該第 2 モジュールへのデータ転送を行なった際に該ブリッジモジュールから該第 2 モジュールへのデータ転送を確認するための確認コードを該ブリッジモジュールに設定する確認コード設定手段とをそ

なえるとともに、

該第 1 モジュールが、

該第 2 モジュールへのデータ転送に必要な転送情報とデータ転送確認フラグとを含むデータ転送記述子を設定する記述子設定手段と、

前記データ転送確認フラグがオンの場合、前記確認コードを該ブリッジモジュールから該第 1 モジュールへ読み出すために必要な確認コード読出情報を含むデータ転送確認記述子を、該記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に基づいて自動的に生成する記述子生成手段と、

該記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に従って該第 2 モジュールへのデータ転送を制御するとともに、前記データ転送確認フラグがオンの場合、該第 2 モジュールへのデータ転送の終了後に、該記述子生成手段によって自動生成された前記データ転送確認記述子における前記確認コード読出情報に従って、該ブリッジモジュールからの前記確認コードの読出を制御する制御手段とをそなえて構成されていることを特徴とする、モジュール間データ転送確認機能を有する装置。

【0072】

(付記 2) 該第 1 モジュールが、

該第 1 モジュールを統括的に管理する第 1 処理部と、

該第 1 処理部からの指示に応じて該インターフェイバスを介してデータ転送を行なう第 2 処理部とをそなえて構成され、

該第 1 処理部が、該記述子設定手段としての機能を果たすとともに、

該第 2 処理部が、該記述子生成手段および該制御手段としての機能を果たすことを特徴とする、付記 1 記載のモジュール間データ転送確認機能を有する装置。

【0073】

(付記 3) 該第 1 モジュールが、

該ブリッジモジュールから読み出された前記確認コードに基づいて該ブリッジモジュールと該第 2 モジュールとの間のデータ転送の正常／異常を判定する第 1 判定手段と、

該第 1 モジュールと該ブリッジモジュールとの間のデータ転送の正常／異常を判定する第 2 判定手段とをさらにそなえて構成されていることを特徴とする、付記 1 記載のモジュール間データ転送確認機能を有する装置。

【0074】

(付記 4) 該第 1 判定手段により異常判定がなされた場合、該記述子生成手段が、詳細エラー情報を該ブリッジモジュールから該第 1 モジュールへ読み出すために必要なエラー読出情報を含むエラー読出記述子を自動生成するとともに、該制御手段が、該記述子生成手段によって自動生成された前記エラー読出記述子における前記エラー読出情報に従って、該ブリッジモジュールからの前記詳細エラー情報の読出を制御することを特徴とする、付記 3 記載のモジュール間データ転送確認機能を有する装置。

【0075】

(付記 5) 該第 1 モジュールが、

該第 1 モジュールを統括的に管理する第 1 処理部と、

該第 1 処理部からの指示に応じて該インターフェイバスを介してデータ転送を行なう第 2 処理部とをそなえて構成され、

該第 1 処理部が、該記述子設定手段および第 2 判定手段としての機能を果たすとともに、

該第 2 処理部が、該記述子生成手段、該制御手段および第 1 判定手段としての機能を果たすことを特徴とする、付記 4 記載のモジュール間データ転送確認機能を有する装置。

【0076】

(付記 6) 該第 2 判定手段により異常判定がなされた場合、該第 1 処理部が、該ブリッジモジュールから読み出された前記詳細エラー情報を該第 2 処理部から取得し、その詳細エラー情報に基づいてデータ再送を該第 2 処理部に対して指示することを特徴とする、付記 5 記載のモジュール間データ転送確認機能を有する装置。

(付記7) 該第1モジュールから複数のデータブロックを該第2モジュールへ連続的に転送する場合、該記述子設定手段が、前記複数のデータブロックのうちの最後のデータブロックを転送するためのデータ転送記述子における前記データ転送確認フラグのみをオンに設定することを特徴とする、付記1～付記6のいずれか一項に記載のモジュール間データ転送確認機能を有する装置。

【0077】

(付記8) ディスク装置とホストとの間にそなえられ該ホストの該ディスク装置に対するアクセスを制御するストレージ制御装置であって、

該ディスク装置とのインターフェイスを制御するディスクインターフェイスモジュールと、

該ホストとのインターフェイスを制御するホストインターフェイスモジュールと、

本装置全体を統括的に管理する管理モジュールと、

インターフェイスバスを介して該ディスクインターフェイスモジュール、該ホストインターフェイスモジュールおよび該管理モジュールをそれぞれ接続されこれらの該ディスクインターフェイスモジュール、該ホストインターフェイスモジュールおよび該管理モジュールの相互間をデータ転送可能に接続するブリッジモジュールと、

該ディスクインターフェイスモジュールもしくは該ホストインターフェイスモジュールが該インターフェイスバスを用い該ブリッジモジュール経由で該管理モジュールへのデータ転送を行なった際に該ブリッジモジュールから該管理モジュールへのデータ転送を確認するための確認コードを該ブリッジモジュールに設定する確認コード設定手段とをそなえたとともに、

該ディスクインターフェイスモジュールおよび該ホストインターフェイスモジュールのうちの少なくとも一方（以下、単にインターフェイスモジュールという）が、

該管理モジュールへのデータ転送に必要な転送情報とデータ転送確認フラグとを含むデータ転送記述子を設定する記述子設定手段と、

前記データ転送確認フラグがオンの場合、前記確認コードを該ブリッジモジュールから該インターフェイスモジュールへ読み出すために必要な確認コード読出情報を含むデータ転送確認記述子を、該記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に基づいて自動的に生成する記述子生成手段と、

該記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に従って該管理モジュールへのデータ転送を制御するとともに、前記データ転送確認フラグがオンの場合、該管理モジュールへのデータ転送の終了後に、該記述子生成手段によって自動生成された前記データ転送確認記述子における前記確認コード読出情報に従って、該ブリッジモジュールからの前記確認コードの読出を制御する制御手段とをそなえて構成されていることを特徴とする、ストレージ制御装置。

【0078】

(付記9) 該インターフェイスモジュールが、

該インターフェイスモジュールを統括的に管理する第1処理部と、

該第1処理部からの指示に応じて該インターフェイスバスを介してデータ転送を行なう第2処理部とをそなえて構成され、

該第1処理部が、該記述子設定手段としての機能を果たすとともに、

該第2処理部が、該記述子生成手段および該制御手段としての機能を果たすことを特徴とする、付記8記載のストレージ制御装置。

【0079】

(付記10) 該インターフェイスモジュールが、

該ブリッジモジュールから読み出された前記確認コードに基づいて該ブリッジモジュールと該管理モジュールとの間のデータ転送の正常／異常を判定する第1判定手段と、

該インターフェイスモジュールと該ブリッジモジュールとの間のデータ転送の正常／異常を判定する第2判定手段とをさらにそなえて構成されていることを特徴とする、請求の範囲第8項に記載のストレージ制御装置。

【0080】

(付記11) 該第1判定手段により異常判定がなされた場合、該記述子生成手段が、詳細エラー情報を該ブリッジモジュールから該インターフェイスモジュールへ読み出すために必要なエラー読出情報を含むエラー読出記述子を自動生成するとともに、該制御手段が、該記述子生成手段によって自動生成された前記エラー読出記述子における前記エラー読出情報に従って、該ブリッジモジュールからの前記詳細エラー情報の読出を制御することを特徴とする、付記10記載のストレージ制御装置。

【0081】

(付記12) 該インターフェイスモジュールが、
該インターフェイスモジュールを統括的に管理する第1処理部と、
該第1処理部からの指示に応じて該インターフェイスバスを介してデータ転送を行なう第2処理部とをそなえて構成され、
該第1処理部が、該記述子設定手段および第2判定手段としての機能を果たすとともに、
該第2処理部が、該記述子生成手段、該制御手段および第1判定手段としての機能を果たすことを特徴とする、付記11記載のストレージ制御装置。

【0082】

(付記13) 該第2判定手段により異常判定がなされた場合、該第1処理部が、該ブリッジモジュールから読み出された前記詳細エラー情報を該第2処理部から取得し、その詳細エラー情報に基づいてデータ再送を該第2処理部に対して指示することを特徴とする、付記12記載のストレージ制御装置。

(付記14) 該インターフェイスモジュールから複数のデータブロックを該管理モジュールへ連続的に転送する場合、該記述子設定手段が、前記複数のデータブロックのうちの最後のデータブロックを転送するためのデータ転送記述子における前記データ転送確認フラグのみをオンに設定することを特徴とする、付記8～付記13のいずれか一項に記載のストレージ制御装置。

【0083】

(付記15) ディスク装置とホストとの間にそなえられ該ホストの該ディスク装置に対するアクセスを制御するストレージ制御装置であって、該ディスク装置もしくは該ホストとのインターフェイスを制御するインターフェイスモジュールと、本ストレージ制御装置全体を統括的に管理する管理モジュールと、インターフェイスバスを介して該インターフェイスモジュールおよび該管理モジュールをそれぞれ接続されこれらの該インターフェイスモジュールおよび該管理モジュールの相互間をデータ転送可能に接続するブリッジモジュールと、該インターフェイスモジュールが該インターフェイスバスを用い該ブリッジモジュール経由で該管理モジュールへのデータ転送を行なった際に該ブリッジモジュールから該管理モジュールへのデータ転送を確認するための確認コードを該ブリッジモジュールに設定する確認コード設定手段とをそなえて構成されたストレージ制御装置において用いられる上記インターフェイスモジュールであって、

該管理モジュールへのデータ転送に必要な転送情報とデータ転送確認フラグとを含むデータ転送記述子を設定する記述子設定手段と、

前記データ転送確認フラグがオンの場合、前記確認コードを該ブリッジモジュールから本インターフェイスモジュールへ読み出すために必要な確認コード読出情報を含むデータ転送確認記述子を、該記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に基づいて自動的に生成する記述子生成手段と、

該記述子設定手段によって設定された前記データ転送記述子における前記転送情報に従って該管理モジュールへのデータ転送を制御するとともに、前記データ転送確認フラグがオンの場合、該管理モジュールへのデータ転送の終了後に、該記述子生成手段によって自動生成された前記データ転送確認記述子における前記確認コード読出情報に従って、該ブリッジモジュールからの前記確認コードの読出を制御する制御手段とをそなえて構成されていることを特徴とする、ストレージ制御装置用インターフェイスモジュール。

【0084】

(付記16) 本インターフェイスモジュールを統括的に管理する第1処理部と、該第1処理部からの指示に応じて該インターフェイスバスを介してデータ転送を行なう第2処理部とがそなえられ、

該第1処理部が、該記述子設定手段としての機能を果たすとともに、該第2処理部が、該記述子生成手段および該制御手段としての機能を果たすことを特徴とする、付記15記載のストレージ制御装置用インターフェイスモジュール。

【0085】

(付記17) 該ブリッジモジュールから読み出された前記確認コードに基づいて該ブリッジモジュールと該管理モジュールとの間のデータ転送の正常/異常を判定する第1判定手段と、

本インターフェイスモジュールと該ブリッジモジュールとの間のデータ転送の正常/異常を判定する第2判定手段とをさらにそなえて構成されていることを特徴とする、付記15記載のストレージ制御装置用インターフェイスモジュール。

【0086】

(付記18) 該第1判定手段により異常判定がなされた場合、該記述子生成手段が、詳細エラー情報を該ブリッジモジュールから本インターフェイスモジュールへ読み出すために必要なエラー読出情報を含むエラー読出記述子を自動生成するとともに、該制御手段が、該記述子生成手段によって自動生成された前記エラー読出記述子における前記エラー読出情報に従って、該ブリッジモジュールからの前記詳細エラー情報の読出を制御することを特徴とする、付記17記載のストレージ制御装置用インターフェイスモジュール。

【0087】

(付記19) 本インターフェイスモジュールを統括的に管理する第1処理部と、該第1処理部からの指示に応じて該インターフェイスバスを介してデータ転送を行なう第2処理部とがそなえられ、

該第1処理部が、該記述子設定手段および第2判定手段としての機能を果たすとともに、該第2処理部が、該記述子生成手段、該制御手段および第1判定手段としての機能を果たすことを特徴とする、付記18記載のストレージ制御装置用インターフェイスモジュール。

【0088】

(付記20) 該第2判定手段により異常判定がなされた場合、該第1処理部が、該ブリッジモジュールから読み出された前記詳細エラー情報を該第2処理部から取得し、その詳細エラー情報に基づいてデータ再送を該第2処理部に対して指示することを特徴とする、付記19記載のストレージ制御装置用インターフェイスモジュール。

(付記21) 本インターフェイスモジュールから複数のデータブロックを該管理モジュールへ連続的に転送する場合、該記述子設定手段が、前記複数のデータブロックのうちの最後のデータブロックを転送するためのデータ転送記述子における前記データ転送確認フラグのみをオンに設定することを特徴とする、付記15～付記20のいずれか一項に記載のストレージ制御装置用インターフェイスモジュール。

【産業上の利用可能性】**【0089】**

以上のように、本発明によれば、データ転送確認フラグを用いてデータ転送確認記述子の自動生成・実行が可能になるので、従来行なわれていた確認コード読出用ディスクリプタの設定処理を省略することができ、CPU負荷が大幅に低減されるとともにPCIアクセス数が大幅に削減され、入出力性能が大幅に向上することになる。

従って、本発明は、例えばホストの物理デバイス（磁気ディスク装置等）に対するアクセスを制御するストレージ制御装置および同装置用インターフェイスモジュールに用いて好適であり、その有用性は極めて高いものと考えられる。

【図面の簡単な説明】**【0090】**

【図1】本発明の一実施形態としてのストレージ制御装置用インターフェイスモジュールの構成を示すブロック図である。

【図2】本実施形態のストレージ制御装置の正常時動作を説明するためのシーケンス図である。

【図3】本実施形態のストレージ制御装置の異常時動作を説明するためのシーケンス図である。

【図4】一般的なストレージ装置（ストレージ制御装置）および本実施形態のストレージ装置（ストレージ制御装置）の構成を示すブロック図である。

【図5】一般的なストレージ制御装置用インターフェイスモジュールの構成を示すブロック図である。

【図6】一般的なストレージ制御装置の正常時動作を説明するためのシーケンス図である。

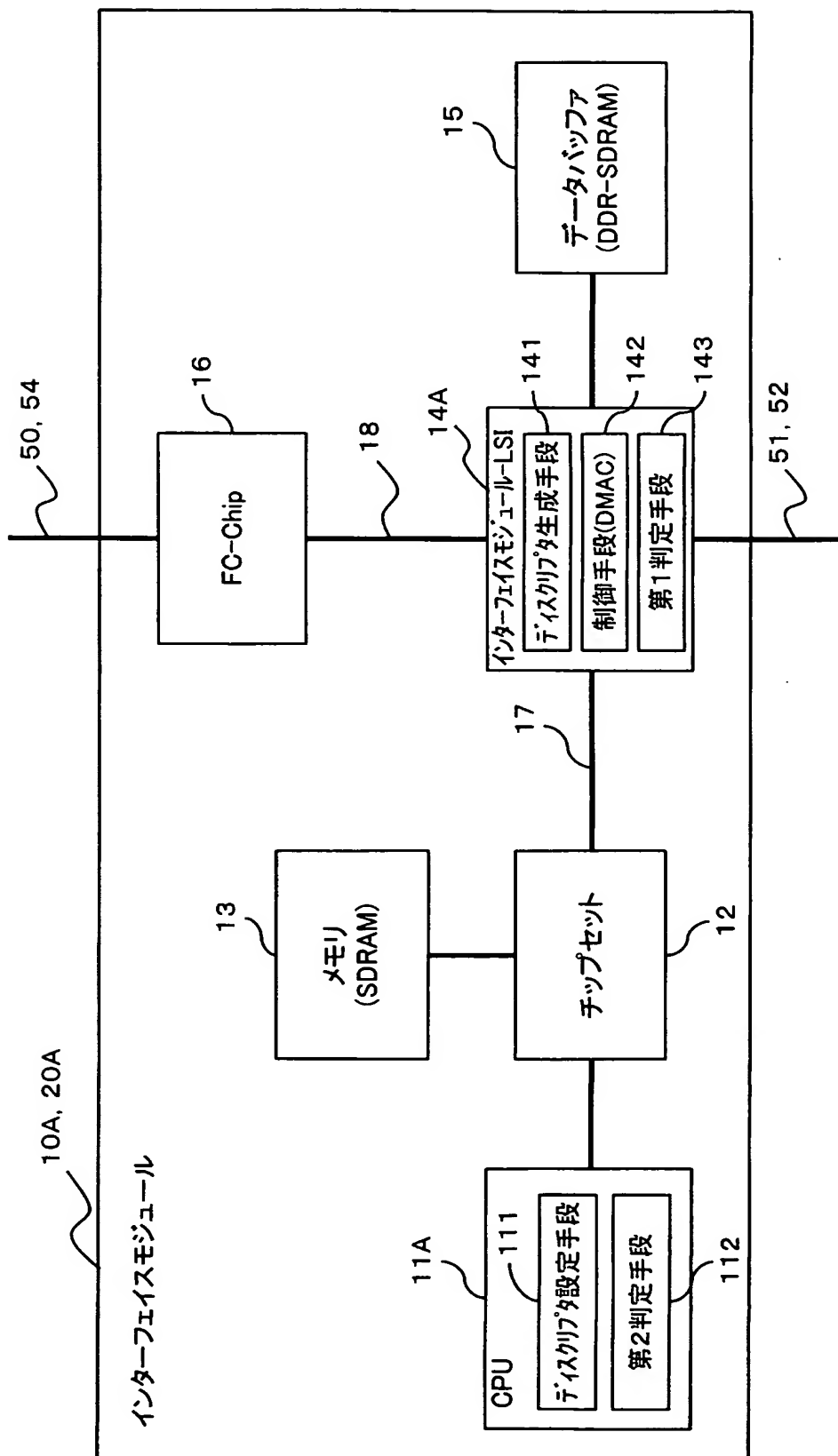
【図7】一般的なストレージ制御装置の異常時動作を説明するためのシーケンス図である。

【符号の説明】

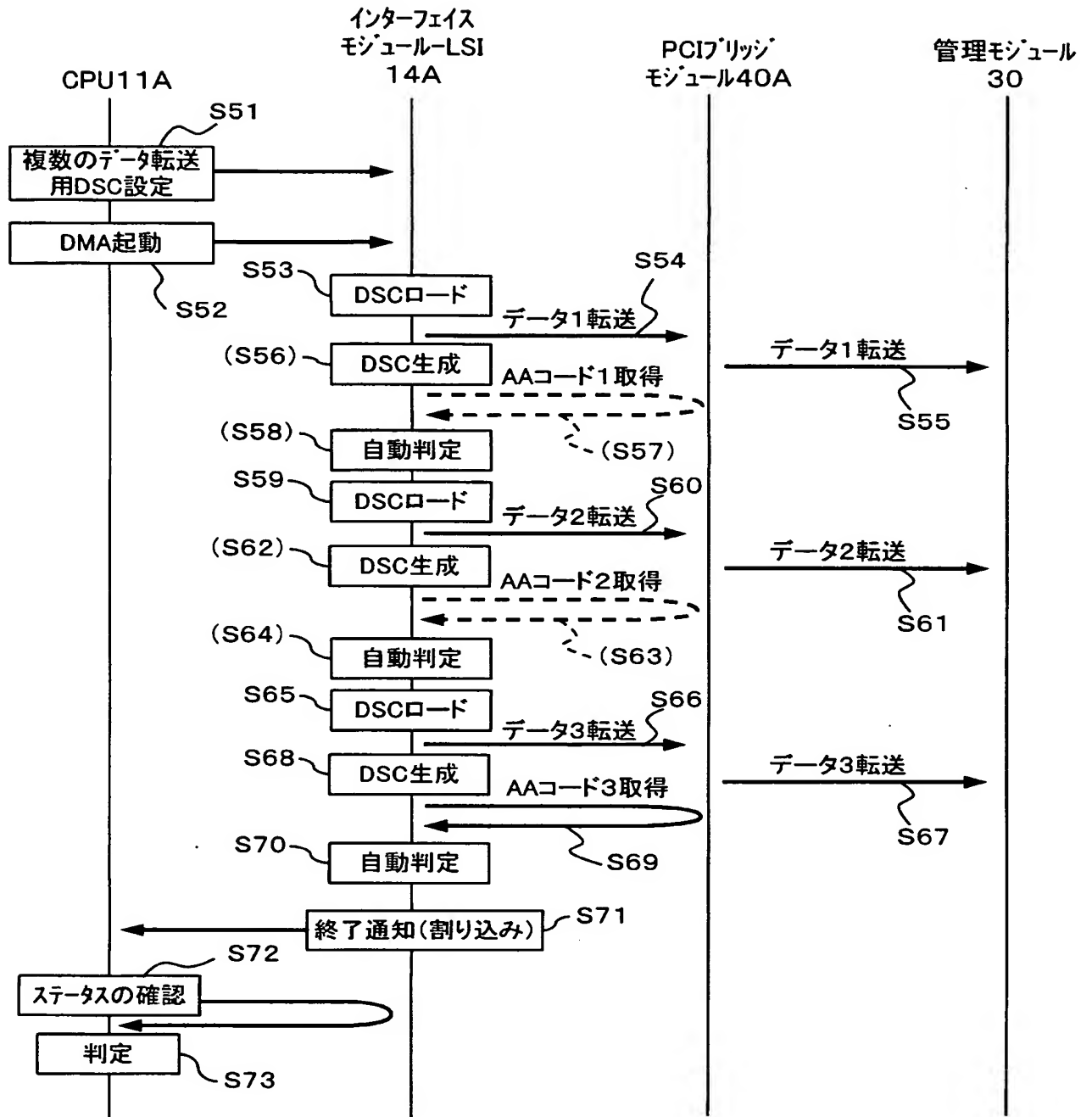
【0091】

- 1 A ストレージ装置
- 2 ディスクエンクロージャ
- 2 a ディスクユニット（ディスク装置、物理デバイス）
- 3 A ストレージ制御装置
- 4 サーバ（ホスト）
- 10 A ディスクインターフェイスモジュール（第1モジュール）
- 11 A CPU（第1処理部）
- 111 ディスクリプタ設定手段（記述子設定手段）
- 112 第2判定手段
- 12 チップセット
- 13 メモリ
- 14 A インターフェイスモジュール—LSI（第2処理部、第2転送処理部）
- 141 ディスクリプタ生成手段（記述子生成手段）
- 142 制御手段（DMAC）
- 143 第1判定手段
- 15 データバッファ
- 16 ファイバチャネルチップ（第1転送処理部）
- 17, 18 PCIバス（インターフェイスバス）
- 20 A ホストインターフェイスモジュール（第1モジュール）
- 30 管理モジュール（第2モジュール）
- 40 A PCIブリッジモジュール（ブリッジモジュール）
- 41 確認コード設定手段
- 50 ファイバチャネルインターフェイスバス
- 51, 52, 53 PCIバス（インターフェイスバス）
- 54 ディスクインターフェイスバス

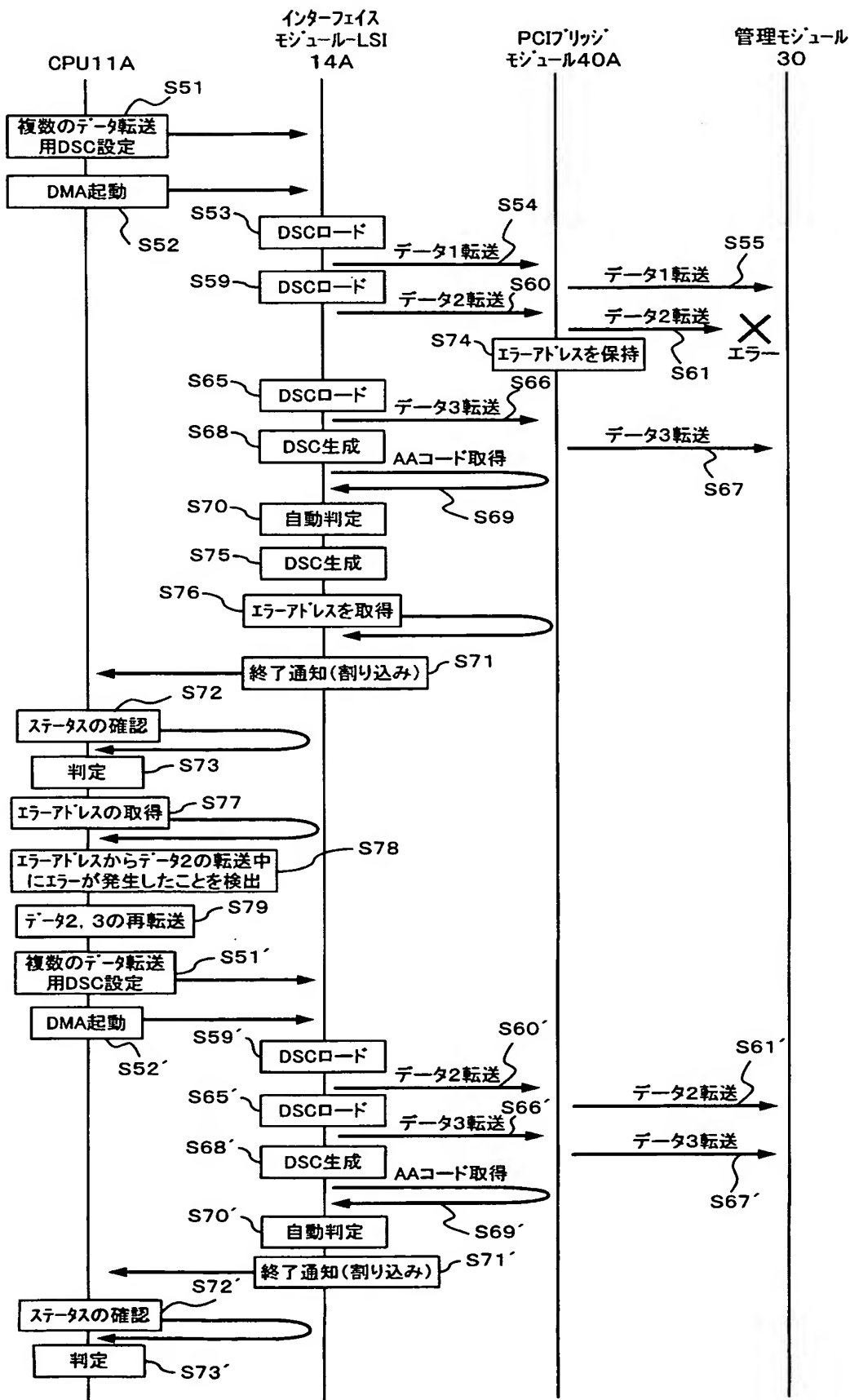
【書類名】 図面
【図 1】



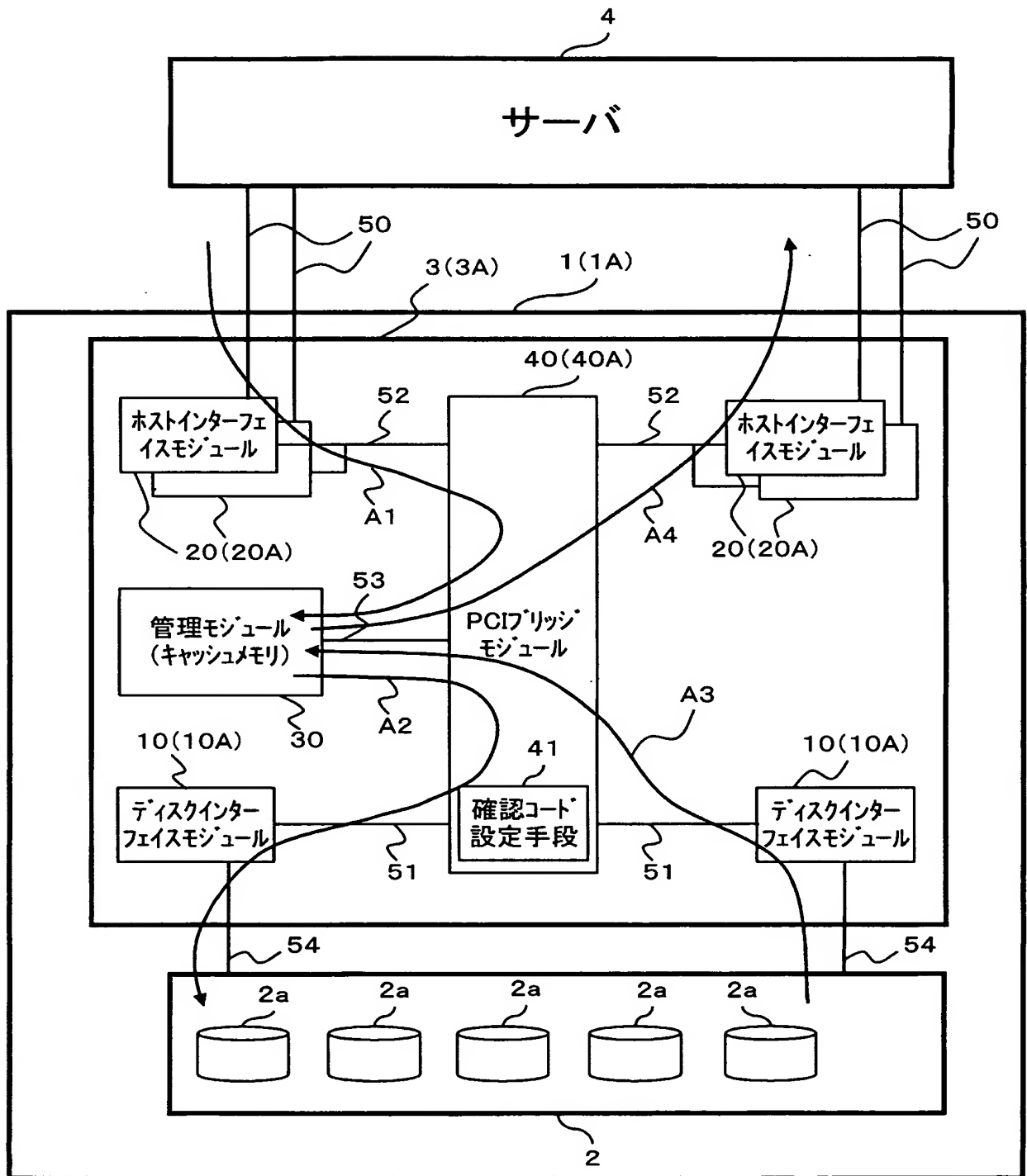
【図 2】



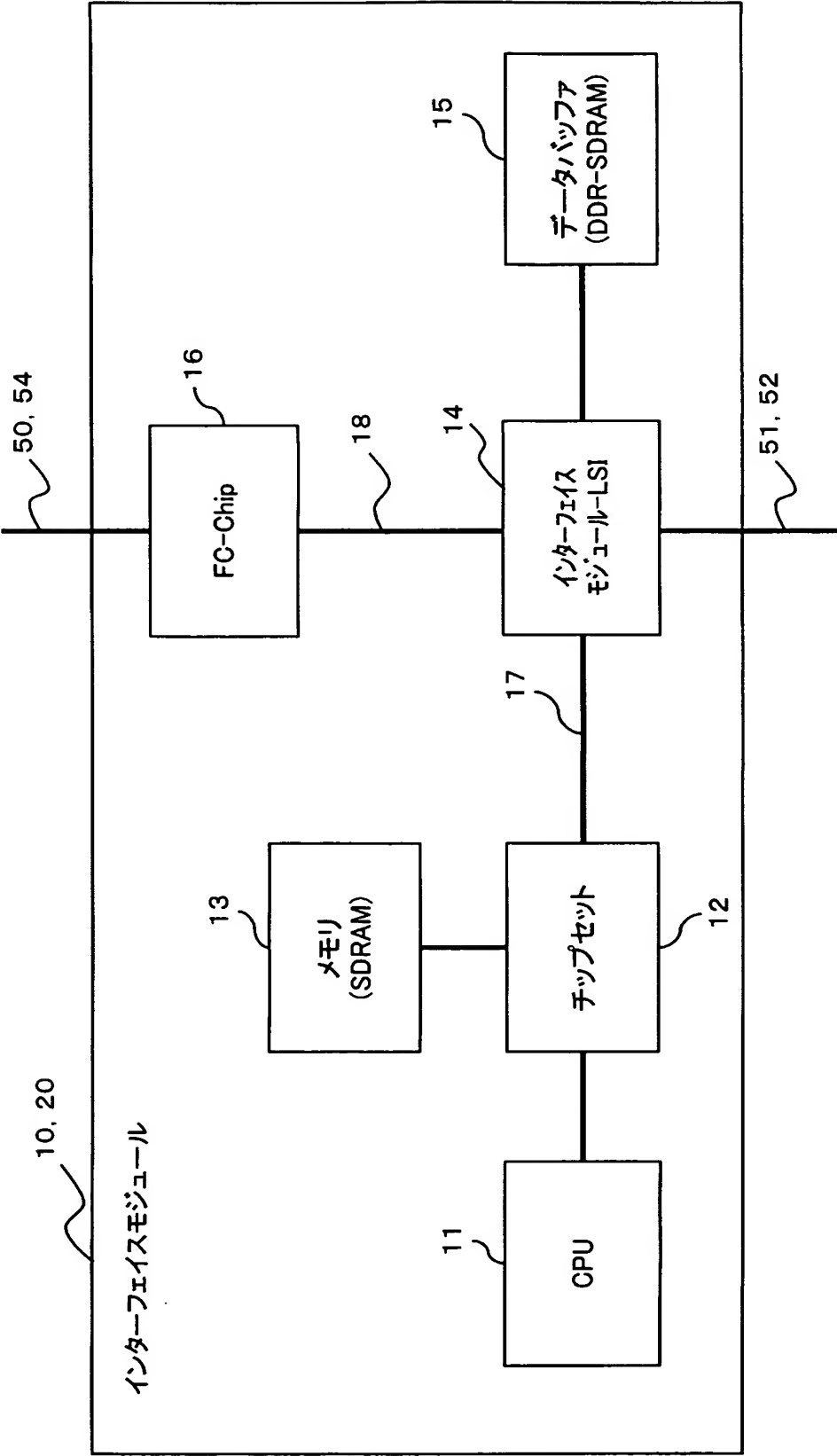
【図 3】



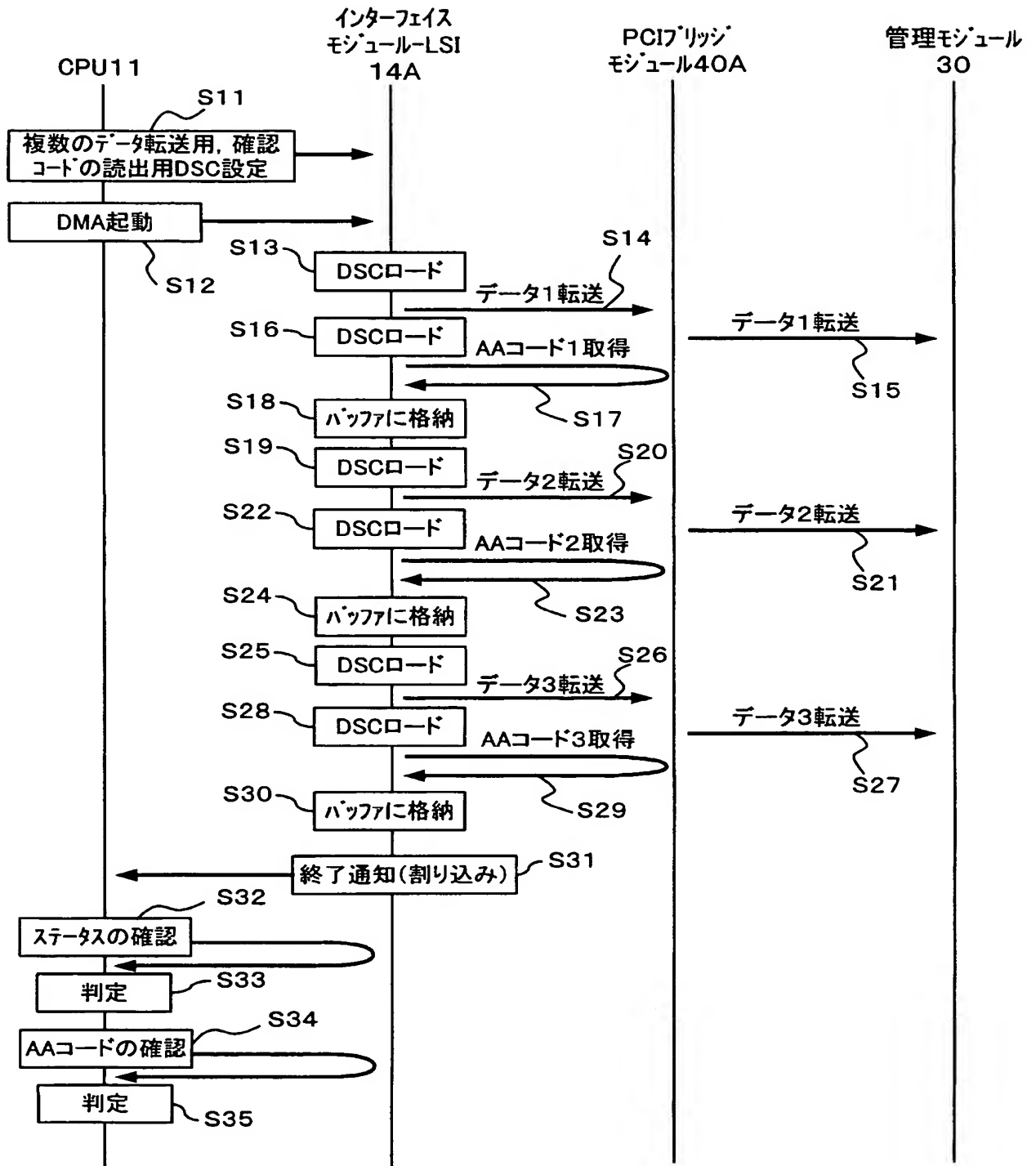
【図 4】



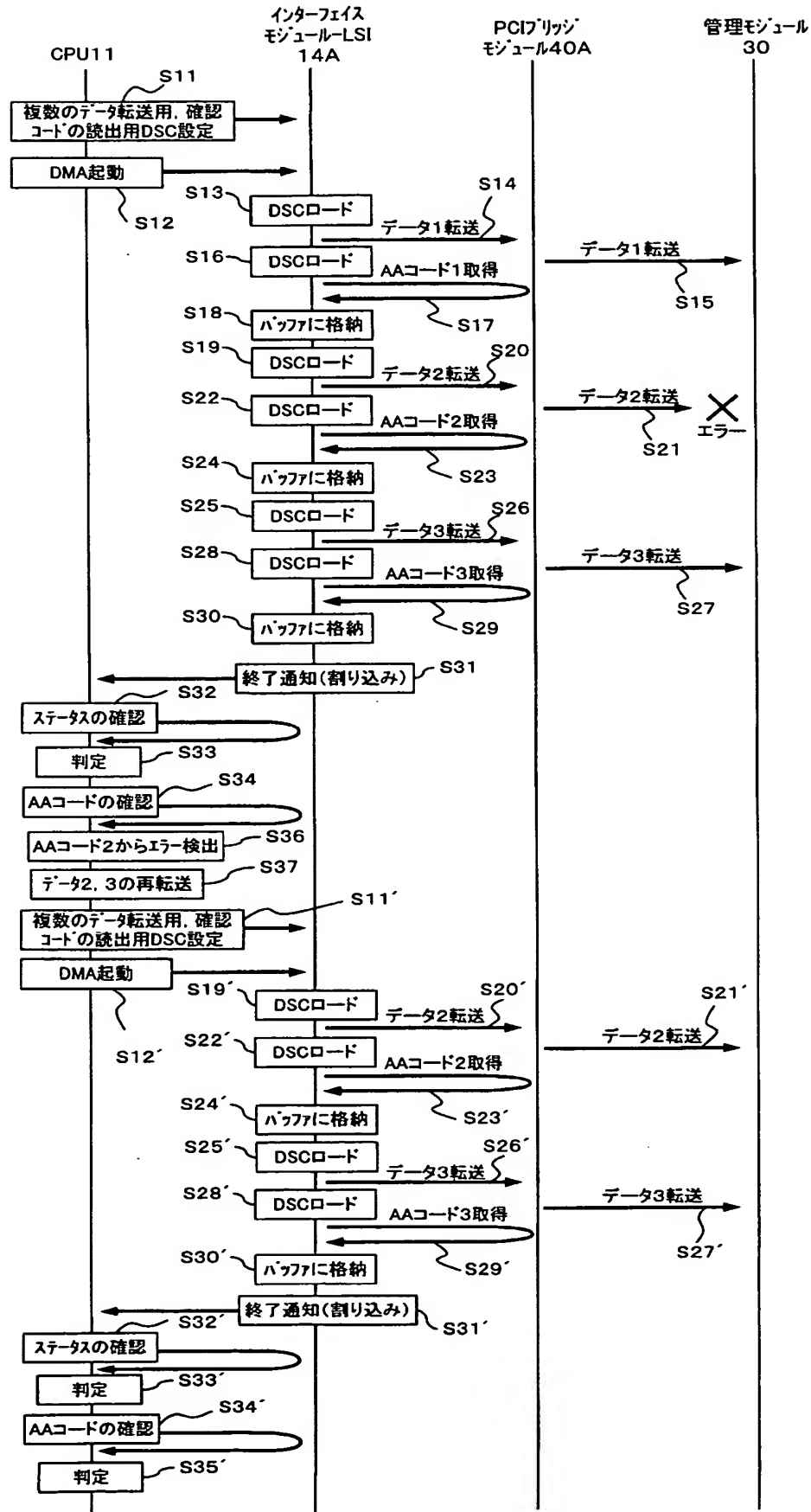
【図 5】



【図 6】



【図7】



【書類名】 要約書**【要約】**

【課題】例えばホストのディスク装置に対するアクセスを制御するストレージ制御装置において、CPU負荷の低減およびPCIアクセスの削減をはかって入出力性能の向上を実現する。

【解決手段】データ転送記述子に設定されるデータ転送確認フラグがオンの場合、データ転送確認記述子をデータ転送記述子における転送情報に基づいて自動生成し、データ転送記述子に従って管理モジュール30へのデータ転送を行なうとともに、管理モジュール30へのデータ転送の終了後に、前記データ転送確認記述子に従ってブリッジモジュール40から確認コードを読み出す。

【選択図】 図1

特願 2 0 0 3 - 2 9 8 2 0 3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 5 2 2 3]

1 . 変更年月日

1 9 9 6 年 3 月 2 6 日

[変更理由]

住所変更

住 所

神奈川県川崎市中原区上小田中 4 丁目 1 番 1 号

氏 名

富士通株式会社